

令和3年度 大阪府立茨木支援学校 第2回学校運営協議会【議事録】

令和3年11月24日

場所：会議室

時間：10時～12時

○出席者：協議会委員6名

茨木支援学校：校長 准校長 教頭2名 事務長 指導教諭 部主事3名
首席4名（うち1名は教務部長兼務）

以上19名

○はじめに（事務局からの連絡）

司会（教頭）：昨年と今年度第1回目はコロナの影響で協議会を開くことができなかったが、今日は皆さんとお顔を合わせて行うことができてよかった。

○校長・准校長あいさつ

校長：「誰も取り残すことのない教育」を学校経営方針としてとして進めている。

教育的支援として、まずは学力保障の観点からは「授業力の向上」、家庭支援の観点からは学校だけでなく、地域にもお願いしながら支援していく。本年度は、支援部を再構築し、COを設置した。担当首席もいる。コロナで困っている家庭の支援も行っている。

本協議会でいただいたご意見も参考にし、検討を重ねながら学校経営を進めている。

准校長：先週土曜日银杏祭を行うことができた。舞台発表ではなかったが、撮影した映像を保護者に鑑賞していただき、成長した児童生徒の姿を見ていただくことができ改めて行事の大切さを感じた。

○事務局自己紹介

○学校運営協議会委員のご紹介

教頭：ここからは委員長様に議事の進行をお願いいたします。

1. 令和3年度 学校経営計画進捗状況について

校長：「SDGs」を元に計画している。昨年度から進めていることもあるので、ご覧いただいていると思う。今年度の重要な柱として、家庭支援に関することを校内支援コーディネーターに担ってもらい、組織的に何らかの対応をしていこうとしている。担任だけが悩まず、ケース会議や福祉との連携など進めている。対応件数も増えているが、どれくらい満足度や効果が見えてくるかはこれからだと思う。授業力の向上として学習指導要領の読み込みを進めている。道徳にも力をいれている。指導教諭だけで進まないところは学校をあげて進められるように検討している。

准校長：高等部に関わる場所としては進路関係。コロナがあって、保護者への説明などがWE

Bになり、進捗としてはゆっくりだったが、ここへきてスピードをあげている。保護者がもっていた不安なども直接会って懇談することで解消しつつある。職業基礎コースも、1年生時から取り組みを進め、進路指導が形になってきていると思う。

協議委員：家庭支援について。解決に向けて教師が家庭事情に踏み込もうとすると、一方で個人情報のことが関わってきたりして、教師の熱意と保護者の期待をうまくかみ合わせるのが難しい。解決までいなくてもそれでいい。解決までやりきらないと、と思うと無理がある。また、高等部で気になるのが、具体的な進路。大学生でも大変なのに、この学校の生徒たちは如何ばかりか。どのようなご努力をされているのか。

校長：困りごとのある親がどこへ相談すればいいかわからない場合、以前に比べると市役所も動いてくれるようになったし、福祉もずっと継続して見守ってくれる状況がある。個人情報に関しては、各市町で申し合わせをして、必要などころに限っては情報を交換・共有できるようになっており、丸抱えせずに進められるようになってきていて助かっている。

准校長：進路については、ありがたいことにコロナの影響そのもので進路がつかずにいる生徒はいない。事業所様にも頑張ってもらっているし、進路担当や担任が保護者と十分に連絡を取り合い連携している。

2. 令和3年度 第1回授業アンケートについて

教頭：資料ご覧下さい。授業改善にも力を入れている資料もご覧ください。

<資料説明>

協議委員：授業はしっかりしてもらっていると思う。批判的な意見こそ大事にしてもらいたい。

親は自分の子どもを通して学校を見ている。子どもを見ていてははっきり判断できる。

なぜだろう？と思うこともあるかもしれないが、きちんと一歩引いて意見を考えてもらいたい。保護者が学校へ行かせてよかったと思ってもらえることが、教師の願いだと思う。

3. 令和3年度 学校教育自己診断アンケートについて

首席：資料ご覧下さい。<資料説明>

アンケート内容については、昨年度ご指摘のあった部分に関して文言などを検討した結果、昨年度と全く同じアンケート内容となっている。

協議委員：今回は概要の説明である。これからデータの集計、分析に入ると思う。文言に関しては次年度以降についてご意見があれば早めに検討いただきたい。整理はされていると思う。

首席：補足として、保護者から「わからない」の選択肢も加えてほしいという意見があった。

協議委員：学校としてその意見を受けて検討する予定はあるのか？

校長：府教委とずいぶん前に検討している。「わからない」を入れてしまうと、評価されない項目が増えるのではと懸念され、何とか気持ちに合うところを選んで欲しいのと、わからなければ聞いてきてもらえるように余白を残している。集計にも関わってくるので、今の状況がベターだと感じている。質問項目は少しずつ変わってきている。投げやりな回答や無責任な回答も減っている。集計が難しい事業なので、きっちりした回答としっかりフィードバックできることをめざしている。

協議委員：生徒用アンケート項目の欄外にある「学校をより良いものにするための意見があれば記入してください。」という部分は、保護者用にはないのですか。また、いじめに関するアンケートに関しても、教えてほしい。

首席：生徒用アンケートの欄外の部分は、保護者用にはありません。

校長：いじめに関するアンケートについては、「安心安全アンケート」を年2回、行っている。小さなこともいじめと認識して関わっている。件数をたくさんあげてもらうことで、知的の生徒でも言っではいけない言葉を認識できるようになってきている。

4. 令和4年度 使用教科書について

教務部長：＜資料説明＞

協議委員：コロナ禍でも教科書の展示会はあるのですか？

教務部長：展示会は行っています。

協議委員：担当者は現物をぜひ見に行ってほしいと思います。

5. 新型コロナウイルス感染対策について

首席：資料説明あり。

現在学校での発症はなく、休校もない。健康観察、検温の励行。欠席が続く児童生徒に関しては、保護者と相談しながらオンライン授業を進めているケースもある。本校のマニュアルはステージによって再度見直し検討を行った。給食場面ではマニュアルを変えずにグリーンステージも継続中。配膳は生徒の生活指導に向けて下膳から再開した。歯磨き指導は口腔ケアを除いて控えている。プール指導については、今年度感染症対策を講じて再開した。

＜各学部からの報告＞

小主事：引き続き感染対策に気を付けながら指導を行っている。換気や手洗い、消毒も自然とできるようになっていて、児童も手洗いなどに慣れてきている。大阪モデルのステージに

合わせて校外活動も行っている。自動販売機で買い物体験学習をしたり、校外散策に出かけたり、6年生は修学旅行で海遊館に行った。交流活動も少しずつ再開し、地域の方とやりとりしながら芋ほりをしたり、福井小学校と交流活動を行ったりすることができた。教員もいろいろ考えて工夫しながら指導している。

中主事：中学部は昨年より少ない人数のスタートとなった。生徒会活動で主体性を大事にしながら学部全体の交流を持つ機会も確保している。昨年度の休校中は、思春期特有の心身の変化が大きく、側弯などの骨の変形や体力低下が見られたが、今年度はしっかりフォローできている。学校生活の重要性を実感している。银杏祭もビデオ撮影での実施だったが十分に力を発揮できた。コロナ禍でも、できることを模索しながら進んでいる。

高主事：160名の生徒数だが保護者の協力で感染に至っていない。体育館での活動もマニュアルと教員の細やかな健康観察で活動できるようにしている。中止になった体育大会も、ビデオに撮ってお互いに鑑賞しあい、银杏祭もビデオ撮影での取組みを実施することができた。高2の宿泊は中止だったが、代替として校外に出る機会を作った。高3修学旅行は、日帰りで今秋（11月27日）実施予定、12月にも徒歩学習を予定している。

司会：参加いただいている協議委員から是非ご意見、ご質問などお願いします。

協議委員：クラブ活動などはされているか？何か目標を作って大会やコンテストに向けて頑張る場面があるといいと思う。目標がないと、自宅にこもってしまい、毎日の日常生活の時間配分ができなくなったり、規則正しい生活がしにくくなったりするのは、ここの生徒も同じではないか。これから取り戻せるといい。

校長：試合自体が中止なので、なかなかできていないが少しずつ再開する予定。生徒たちのルーティンは事業所などで守られているが、土日はなかなか難しい。府立学校の生徒たちはそのあたりが守られている。分散登校もしなくてすんでいる。当初は通学バスの運行も心配していたが、校内でクラスターを発生させることもなく、マスク着用が当たり前になるような学校生活になっている。保護者も学校や放デイに行かせている。

協議委員：地域の学校のほうが厳しいので、正直ほっとさせてもらえている。

准校長：体育館や運動場の使い方を早くから検討してもらったので、生徒も徐々に体を動かす機会や運動量が増えている。

協議委員：今年、オリンピック・パラリンピックを経験して色々学ぶことがあった。生徒たちも何か興味をもったことがあるか？

高主事：教員とオリンピック・パラリンピックについておしゃべりしていた。ポッチャも前から

学習していたので、競技を見て盛り上がっていた。

校長：ポッチャはパラリンピック前から全国大会に行くなど取り組んでいる。

協議委員：就職活動に苦勞されていると思う。本事業所にも北摂の支援学校だけでなく、東淀川・思齊などから応募があった。

校長：昨年度は大変だった。今年は事業所に関してはある程度の枠が担保されていると思う。マッチングの苦勞はあるが、早い時期からの対応で何とかなっている。就勞できずに困っている生徒はいない。一般の大学生のほうが大変だったと思う。

協議委員：就職できたのに、ロックダウンで秋まで働けない人もいた。知的障がいのある人はリズムを作るのが大変。市内の生徒さんたちの応募があるということは、厳しいのではないかと推測する。何かできることがあればいつでも応援する。

協議委員：PTAは言い出したら細かいことになってしまうが、地域の学校に比べたら支援学校はいろいろな意味で良いと思う。

6. 意見書について

教頭：意見書については、今回はご意見をいただいております。

7. その他

教頭：次回の学校運営協議会についてのご案内

次回は1月26日(水)となっています。ご参加いただきますようによろしく願いいたします。

それではこれにて第2回学校運営協議会を終わらせていただきます。

【配布資料】

- ・次第 ・協議委員名簿 ・令和3年度 学校経営計画 ・令和3年度授業アンケートについて
- ・令和3年度 学校教育自己診断アンケートについて 令和4年度 使用教科書について
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて ・新型コロナウイルス感染症対応マニュアル